

第2回 富山県特別支援教育将来構想検討会

日時 令和3年11月15日
午後3時より
場所 県民会館401号室

次 第

1 開 会

2 議 題

(1) 富山県特別支援教育将来構想（素案）について

(2) その他

3 閉 会

富山県特別支援教育将来構想検討会設置要綱

(目的)

第1条 富山県における特別支援教育の現状と課題を整理し、社会状況に応じた特別支援教育及び就労支援の将来構想の策定に関する検討を行うため、富山県特別支援教育将来構想検討会（以下「検討会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 検討会は、次の事項について検討する。

- (1) 本県における特別支援教育を取り巻く課題に関すること。
- (2) 本県における特別支援教育及び就労支援の将来構想に関すること。
- (3) 前各号に掲げるもののほか、本県における特別支援教育の振興に関すること。

(組織)

第3条 検討会は、委員15名以内をもって組織する。

2 委員は、学識経験者、学校教育関係者、保護者、医療・福祉・就労支援関係者及び経済界関係者のうちから、教育長が委嘱する。

(会長等)

第4条 検討会に、会長及び副会長を置く。

- 2 会長は、委員の互選により定め、副会長は、会長が指名する。
- 3 会長は、会務を総括し、検討会を代表する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 検討会の会議は、教育長が招集し、会長が議長となる。

(委員の任期)

第6条 検討会の委員の任期は、令和4年3月31日までとする。

(アドバイザー)

第7条 専門的立場からの意見を聴くため、検討会にアドバイザーを置くことができる。

- 2 アドバイザーは、学識経験者のうちから、教育長が委嘱する。
- 3 アドバイザーは、教育長の要請に応じて検討会に出席するほか、検討会の所掌事務に関する事項に対して助言を行うものとする。

(幹事)

第8条 検討会に幹事を置く。

- 2 幹事は、富山県教育委員会事務局職員のうちから、教育長が任命する。
- 3 幹事は、検討会の事務を処理する。

(事務局)

第9条 検討会の事務局は、富山県教育委員会県立学校課に置く。

(細則)

第10条 この要綱に定めるもののほか、検討会の運営その他必要な事項は、教育長が別に定める。

附則

この要綱は、令和3年6月25日から施行する。

富山県特別支援教育将来構想検討会委員等 名簿

令和 3 年 1 1 月 1 5 日

(委員 1 4 名、五十音順、敬称略)

役 職	氏 名	所 属
会 長	鷹西 恒	富山福祉短期大学国際観光学科教授
副会長	小林 真	富山大学人間発達科学部教授
委 員	荒木 信幸	有限会社荒木商会代表取締役
〃	稲澤 透	富山県立志貴野高等学校校長
〃	勝田 民	富山県 P T A 連合会副会長
〃	金兼 千春	国立病院機構富山病院院長
〃	國香真紀子	富山市立芝園小学校校長
〃	篠田 恵	富山県特別支援学校知的障害教育校 P T A 連合会会長
〃	島先 亜希	特定非営利活動法人工房あおの丘理事長
〃	高瀬 幸忠	株式会社スカイインテック代表取締役社長
〃	西村 和美	富山ケアネットワーク事務局長
〃	畑井 俊信	射水市立小杉中学校校長
〃	政二 里佳	富山県立しらとり支援学校校長
〃	松本 謙一	南砺市教育委員会教育長

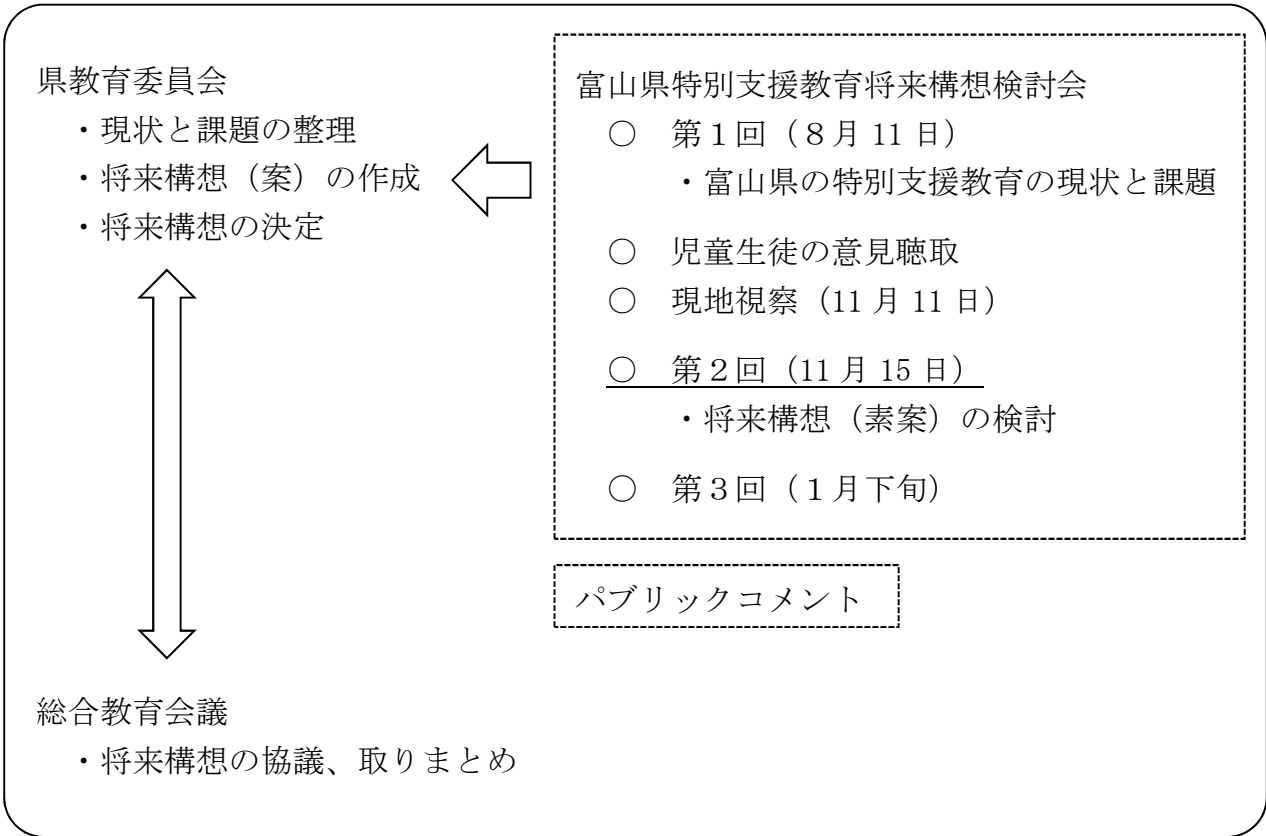
※アドバイザー 宮崎 英憲 東洋大学名誉教授

富山県特別支援教育将来構想検討会の検討事項とスケジュール

[検討事項]

- (1) 本県における特別支援教育を取り巻く課題に関すること。
- (2) 本県における特別支援教育及び就労支援の将来構想に関すること。
 - ・ 共生社会の実現に向けた連続性のある多様な学びの場の整備
 - ・ 学校、家庭、地域、医療・福祉・保健・労働等の連携強化
 - ・ 多様な教育的ニーズに対応できる教員の専門性向上
 - ・ ICTや専門家の活用による指導の充実
 - ・ 企業と学校、家庭が一体となった就労支援
 - ・ 特別支援学校の施設設備等、教育環境の整備

[スケジュール]



第 1 回富山県特別支援教育将来構想検討会における主な意見

1 検討会委員の意見

[共生社会の実現に向けた連続性のある多様な学びの場の整備]

○連続性のある多様な学びの場について

- ・ 幼児期からのしっかりした支援が、学びの場の見極めや就学後の適切な支援につながる。特別支援学校幼稚部の設置数、在籍者数が少なく、幼稚部に通う子供たちは幼児期の集団の中での学びに弱さがある。幼稚部の子供たちが近隣の幼稚園等と交流できる時間を増やすなど弾力的な教育課程の運用も必要ではないか。
- ・ 教育相談や交流体験の機会を大切にして、子供を真ん中においた就学や転学を考えていく必要がある。適切な学びの場の検討については、市町村との連携も欠かせない。
- ・ 特別支援学級の子供たちが、交流学級に入りながらバランスよく学び、人間性豊かに成長していくことが望ましい。
- ・ 「心のバリアフリー」をすすめるには、例えば、通常の学級に在籍しながら、特別支援学級での学びも保障するなど、学びの場のバリアフリーの環境を作っていく必要がある。そのことで、保護者も安心して、子供に合った学びの場を選択できるようになるのではないか。

○特別支援学級、通級による指導、通常の学級における特別支援教育について

- ・ 小規模の学校でも特別支援学級を開級してもらえた。誰一人取り残さず、一人でも大事にしてくれる教育がなされる県になっていくことを嬉しく思う。
- ・ 県内の特別支援学級の子供たちは増えており、人的支援について特にお願いしたい。
- ・ 高校においても特別な配慮や支援を必要としている生徒が増加しており、通級による指導で放課後に週 1 日 2 時間程度学んでいる。さらなる充実をお願いしたい。
- ・ スタディ・メイトの配置は、市町村によって対応に差がある。県でガイドラインを作ってもらいたい。

[学校、家庭、地域、医療・福祉・保健・労働等の連携強化]

○支援体制の整備

- ・ 障害の程度が特別支援学校の教育対象となる子供の場合、少人数の中で丁寧に教えてもらえる権利があると思う。その子供にとって一番いい就学となるように就学支援の仕組みを整備することが必要である。
- ・ 子供にとって教育を受けることがどういうことなのかを、保護者とともに小さなときから考えられるような社会にしていけないといけない。
- ・ 特別な支援を必要とする子供本人だけでなく、保護者の背景にも目を向けてケアしていく必要がある。
- ・ 先生方に特別支援教育将来構想のことを理解してもらい、現場でどう活用できるかということ意識してもらいたい。

○連携強化の取組

- ・中学校では、早い段階から小学校と連携したいと考えている。また、卒業生の進学先での頑張りの情報があると保護者の安心につながる。高校との連携も充実させたい。
- ・病院では知的障害や身体障害、発達障害の子も含めてたくさん診ている。小さいころから、学校を卒業し、その後どうなったかまで見ている。そういった情報も活用してもらい、協力していければと思う。
- ・子供の育ちの見通しの情報は保護者がもっている。親の会等から必要な情報をもっと集めるとよい。また、好事例集のようなものがあるとよい。
- ・幼少期からどんな教育や支援を受けてきたか分かる生涯を通じたカルテのような仕組みがあるとよい。就職してからもずっと役に立つと思う。
- ・福祉事業所、病院、学校等の連携には、「個別の支援計画」等の活用や引継ぎが大切である。関係機関と一緒に子供の生活や支援について考えていけるとよい。
- ・富山型デイサービスと特別支援学校とで行っている情報交換や研修会は連携を推進している。

[多様な教育的ニーズに対応できる教員の専門性向上]

- ・保育現場の方が就学基準について理解していないとスムーズな就学が難しい。
- ・知的障害とか自閉症スペクトラム障害、ADHD等の子供は、幼稚園・保育所・こども園で過ごしている。専門的なケアが受けられるようスタッフの専門性を高めることが必要である。
- ・特別支援学級にもできるだけ資格をもった教員を配置してほしい。
- ・特別支援学校と市町村立学校との人事交流があれば、小中学校等においても特別支援教育の専門性の高い人が常に何人かいて心強い。
- ・高校では、特別支援教育に関する研修を行っているが、通級指導担当教員等の専門家によるバックアップは物理的、精神的に必要不可欠なものになっており、制度の充実をお願いしたい。
- ・関係機関や学校間の連携には、特別支援教育コーディネーターの役割が重要であり、ソーシャルワーク的な能力が要求される。特別支援教育コーディネーターを育成する研修を充実させることが必要である。
- ・特別支援教育支援員の専門性を高めることが必要であり、支援方法等について検討したり情報交換したりする機会を設けてほしい。また、特別支援教育支援員が知っておくべきことをまとめたガイドラインを作成するとよい。

[ICTや専門家の活用による指導の充実]

- ・子供や教員がICTを使えるという視点ではなく、ウェアラブル端末として体に身に付け、コンピューターが活動を支援するような活用が有効だと思う。
- ・ICTの活用は外出が難しい方たちや、災害など学校へ行けない時の対応に非常に有効である。

[企業と学校、家庭が一体となった就労支援]

- ・職業体験先が多いほど、就労のチャンスが生まれる。「特別支援学校就労応援団とやま」の登録企業数を増す取組があると良い。
- ・社会的弱者と言われる方を雇用し、社員とともに、「その子をどんなふう育てていくか」を考える会社が増えてほしい。障害のある方が働きがいを感じて働けるような社会づくりが大切であり、働くことが苦しい方々のことも考えていけるような企業経営者を増やしていきたい。
- ・企業経営者の障害者雇用に対する不安を払拭するためのヒントが教育のなかにあると思われることから、県と企業の連携をさらに濃くしてほしい。

[特別支援学校の施設設備等、教育環境の整備]

- ・特別支援学校の建物が、増築の繰り返しにより構造化されておらず、非常に使いにくくなっている。長期的な展望で大規模な改修に取り組んでほしい。

2 アドバイザーからの助言

- ・インクルーシブ教育システムの理念を構築すること、特別支援教育が進展していくために何が必要かについてしっかり押さえておく必要がある。その上で、連続性のある学びの場をどのように充実させていくか検討することが大事である。
- ・障害のある子供と障害のない子供が可能な限り、共に教育を受けられる条件整備をどう進めるかが重要である。そのために、通常の学級の子供と特別支援学級や特別支援学校の子供が共に学ぶ機会の充実を考える必要がある。交流及び共同学習がインクルーシブ教育システムの実現に寄与できることを念頭において検討する必要がある。
- ・多様な学びの場の観点から、柔軟な就学の保障が求められており、教育課程の円滑な接続という連続性の実現に向けた教育課程や学びの内容を検討する必要がある。
- ・家庭に求められる教育力に関する課題などについて、子供に適した環境整備をどう充実させていくかがポイントになる。
- ・連携強化に関して、特別支援連携協議会の早期支援部会を将来構想とどのように連携して位置づけるかがポイントになる。福祉との連携という視点で、保育所等や療育機関で学んでいる子供たちを幼児期の学習に位置づけるように考えると、就学指導のあり方などに意識的に対応できるのではないか。
- ・専門性向上については、学校に入る様々な関係者に、基本的な教育の考え方を理解してもらい、学校の中により充実した専門的な仕組みを導入する方策を考えるとよい。
- ・就労支援については、高等部で何を学ぶかということが一番のポイントである。就労先に関しては、学習内容によって違いが出てくる。今後、就労先にも大きな変化が見られると思われ、特別支援学校の職業教育はどうあるべきかを考えていけばよい。
- ・発達障害の子供の卒業後について、振り返ることからはじめ、特別支援学校、特別支援学級、高等学校での教育はどうあるべきかを検討していけばよい。

第 1 回富山県特別支援教育将来構想検討会における委員からの追加意見

[共生社会の実現に向けた連続性のある多様な学びの場の整備]

- ・保護者の障害受容が十分でないため特別支援学校への就学に拒否的な場合がある。障害の有無よりも一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の特性の説明が必要である。
- ・特別支援学校への就学を勧めることが障害者差別となると教員や家族が考えることがある。インクルーシブ教育システムについての説明を丁寧に行っていく必要がある。
- ・特別支援学校に就学することで、障害者として生活していくことになり、進学や就職に不利益があると考えられてしまう。特別支援学校への就学が普通高校や大学への進学などの資格を失わせるものではないことを理解してもらうことも必要である。
- ・定時制高校の通級による指導の認知度が低い。定時制高校に限らず、通級による指導の拡大が必要である。定時制高校の発達障害への対応の一層の充実が求められる。
- ・地域の中の富山型デイサービスのような所で、世代間の学びができるのではないかとと思う。祖父母の家に帰るように、のびのびと過ごせばよいと思っている。
- ・交流及び共同学習をイベントではなく、両校にとって有意義な交流にすることが大切である。両校の教員や子供たちが交流及び共同学習の意義を理解し、何を学ぶのかを明かにして、事前や事後の学びに向かうことが大切である。とりわけ、小中学校の子供たちには共に学ぶことの大切さを理解してもらい、心のバリアフリーを浸透させる機会としてほしい。学びの連続性からも重要である。
- ・通常の学級の子供、保護者や地域住民の意識改革も、一層進めていく必要がある。SDGs 未来都市づくりの一貫として、多様性を認め合う社会づくりの視点は意味がある。
- ・特別支援学校の設置は、公共交通機関を利用して通学できる駅周辺か中心市街地が好ましい。図書館やショッピングセンター等から近いところが文化に触れやすくよい。
- ・通常の学級の特別な教育的支援を必要としている全ての児童生徒が必要な支援を享受できることが難しい現状がある。特別支援教育支援員の増員、通級指導教室の開設拡大等の支援を期待する。

[学校、家庭、地域、医療・福祉・保健・労働等の連携強化]

- ・障害者にとって、医療と教育と福祉は切っても切れないものであり、学齢期だけで終わる問題ではない。難しいと思うが、互いに補完しあう関係をめざすことを望む。
- ・障害福祉、支援を必要とする生徒への支援の情報の認知不足がある。障害福祉、社会福祉の関係機関との連携を重視していくことが大切である。
- ・福祉との連携については、連携が必要な児童生徒について個別の教育支援計画を活用していくことが考えられる。
- ・就職後、様々な場面で支援しているが、今は連続した記録を容易に得ることができていない。学校時代のことや家庭内のことなどの知識があると、もっと的確な指導や相談に応じられる。マイナンバーカードのような仕組みに、教育や生活の記録を残してほしい。(病院のカルテのような考え)

- ・障害のある子供は、生まれた時からの、ケアマネージャーのような存在が必要であり、生育歴の一元的把握の充実が求められる。
- ・就学前の幼児について市町村がイニシアチブをとって個別の教育支援計画を作成することは、適切な学びの場の検討にもつながり、就学先の学校において適切な支援を検討する重要な資料となる。

[多様な教育的ニーズに対応できる教員の専門性向上]

- ・特別支援教育に対する知識と経験が少なく専門性が充分でない教員が担当している現状がある。特別支援学校のセンター的機能として果たすべき役割は大きく、特別支援学校においても専門性の更なる向上が必要である。
- ・児童生徒に分かりやすい指導を行うことはもはや特別なものではない。授業のユニバーサルデザイン化を推進する必要がある。また、そうすることで、支援の必要な子供が友達と共に学んでいる実感がより持てるようになることが期待される。
- ・小中学校等においては、特別支援学級の担任だけでなく、全員が特別支援教育に係る専門性を身に付けることが大切である。特別支援教育の一般的な研修も有効であるが、特別支援学校や巡回指導員をはじめ、必要な時に必要な外部専門家がその学校の実情に応じて助言や研修を行える体制をさらに充実させることが望まれる。

[ICTや専門家の活用による指導の充実]

- ・DXの急速な普及・進展に伴い、リモートワークは、障害者の新たな就労の形となる。
- ・専門家を活用し、ウェアラブルコンピューティングの具体的なソフトの提供を受けるとよい。
- ・ICTの活用を進めるには、障害種や個のニーズに応じたアプリの開発が必要になってくる。大学等の研究機関からの助言やアプリ開発の支援等があるとよい。
- ・特別支援教育に生かせる最新技術の研究の推進と教職員が学ぶ機会、そして機器等の導入を促進してほしい。学校を卒業したら支援が終わりではなく、将来にわたって子供たちが豊かに生きるための一助となるとよい。

[企業と学校、家庭が一体となった就労支援]

- ・自立への可能性をより高めるため職能教育をもっと早い段階から受けられるように改革するとよい。
- ・就労先としての、就労継続支援B型事業所「はたらくわ」の働き方は魅力的である。従来の一つの事業所に障害者を集めて、物づくりをするというスタイルではなく、自分の住んでいる身近な富山型デイサービスで働くという、新しい形の就労である。
- ・企業のトップの理解が得られない場合などがあり、企業全体の理解啓発が必要である。就労した後に担当者が変わり、対応できず、働き続けられないケースや、人間関係のトラブルで働けなくなるケースがある。職場定着のためのアフターケアも必要である。

[特別支援学校の施設設備等、教育環境の整備]

- ・特別支援学校は、安全面でも、小中学校では当たり前になっている玄関の電気錠がな

い学校が多い。校舎が複雑で平屋が多い分、たくさんの出入り口がある点についてもなかなか対応できない現状である。現状への対応と並行して、計画的な改築、改修を行い、障害種別に合わせた施設設備の充実を図る必要がある。

- 小中学校等で空き教室がある場合は、個別のスペースの確保ができるとよい。

特別支援学校、小学校・中学校の子供たちからの意見

1 学校で、楽しいこと

[特別支援学校]

- ・いろいろなことを学べること、ほめられること
- ・個別学習で分かるように教えてもらえること、面白く教えてもらえること
- ・授業（作業、体育、音楽、総合、情報、自立活動） ・ ipad の授業
- ・友達と遊ぶこと、話すこと、一緒に勉強すること、会えること
- ・先生と話すこと、過ごすこと ・ 休み時間
- ・運動（身体を動かすこと） ・ 部活動 ・ 給食

[小・中学校]

- ・勉強が分かること、好きな勉強があること
- ・自分の意見が言えること
- ・友達と一緒に遊ぶこと、勉強すること、話せること
- ・先生と話したり、遊んだりできること
- ・体を動かせるところ ・ 部活動 ・ 給食

2 学校で、困っていること

[特別支援学校]

- ・勉強、宿題 ・ もっと集中できるようになりたい、授業中眠くなること
- ・作業学習における体力や気持ちに関すること
- ・気持ちのコントロールが難しいこと
- ・友達との関わり方、コミュニケーション、思いを伝えられないこと
- ・友達がたくさんほしい
- ・進路のこと
- ・トイレが少ないこと（肢体不自由） ・ 図書室と会議室が兼用なこと
- ・視聴覚室がない、プレイルームが狭い ・ 水飲み場がほしい
- ・休憩時間を長くしてほしい ・ 部活を増やしてほしい

[小・中学校]

- ・勉強がわからない、勉強で困っていたら助けてほしい
- ・授業のスピードが早い
- ・ノートを書くときに時間がかかる、自分のペースで書ける時間がほしい
- ・時間にゆとりがない、次の授業の準備時間が短い
- ・人と交わることが苦手、友達とけんかになること
- ・休み時間を長くしてほしい

3 学校で、もっとやってみたいこと

[特別支援学校]

- ・勉強、作業学習、委員会活動、部活動、遊び
- ・いろいろなスポーツ（アメフト、ラグビー、球技など）
- ・ipad やパソコンの使い方、オンライン授業、リモートを使ったイベント
- ・友達と過ごすこと、学校全体の仲が深まる行事や活動
- ・関わりのない人との交流、地域の人との触れあい
- ・交流校で一日過ごす
- ・校外学習、修学旅行、外での運動会（肢体不自由）

[小・中学校]

- ・勉強、運動、楽しい学習
- ・交流級と遊んだり、一緒に活動したりしたい
- ・友達とたくさん遊びたい、友達との意見の出し合い
- ・ボランティア活動、体験的な学習（栽培、調理など）、お楽しみ会、遊び

4 学校で、先生から教わりたいこと

[特別支援学校]

- ・勉強、作業学習、パソコンの使い方、運動
- ・自立活動、コミュニケーション（人との関わり方）
- ・自分のことについて（自分に向けた仕事）
- ・生活に役立つこと（料理、買い物、片付けなど）、生きる知恵について
- ・生き方やものの考え方について、将来について
- ・身体が不自由な人がどんなふうにいるのかについて
- ・世界の障害のある人の暮らし、他校の同年代の生徒の様子を知りたい
- ・社会に出てからの経験談（困ったことなど）

[小・中学校]

- ・勉強の難しいところ、分からないことを教えてほしい、勉強の仕方
- ・IT 機器の使い方（プログラミング）、作業学習
- ・大人になるためのいろいろなことを教えてほしい
- ・生活していくため、できることを増やせるようなことを教えてほしい
- ・コミュニケーションの取り方や友達との話し方

5 学校で、先生と一緒に、もっとやってみたいこと

[特別支援学校]

- ・ 勉強、英会話、パソコン、タブレットを使う（動画の作成）、作業学習
- ・ 実験や実習など、体験する授業（調理学習など）
- ・ 運動（サッカー、バドミントン、バランスボート類、ダンス、球技など）
- ・ 学部活動、遠足、旅行（修学旅行）、遊び、お手伝い、音楽活動
- ・ 進路について

[小・中学校]

- ・ 勉強 ・ パソコンを使う学習
- ・ 作業活動
- ・ 掃除やボランティア活動 ・ 外での活動
- ・ いろいろなトレーニング
- ・ 交流級の先生とオンラインをしたい
- ・ 一緒に運動したり、遊んだり、話したりしたい

6 パソコンやタブレットを使ってほしい勉強

[特別支援学校]

- ・ 勉強（教科の学習）、調べ学習、オンライン授業
- ・ アプリを使った学習（ゲーム的、教科書の読み上げ、イラストを描く）
- ・ パソコン、タブレットの使い方（インターネット、プログラミング、動画作成、音楽を作る、ゲーム、バーチャル体験など）
- ・ 遠くの人との交流、就業体験中のオンラインでの報告
- ・ 視線入力

[小・中学校]

- ・ オンライン授業、教科の勉強、調べ学習、意見の交換
- ・ ゲーム、ゲーム的な学習（問題）
- ・ プレゼンテーション、音楽を作る、プログラミング
- ・ タイピングの練習
- ・ ゲーム制作につながることに
- ・ アンケート

7 これまで、とても役に立った勉強やおもしろかった勉強

[特別支援学校]

- ・ 勉強、授業での模擬体験、作業学習、自立活動、運動
- ・ パソコンの使い方、オンライン授業、プログラミング
- ・ 校外学習、特別活動（学部集会）

[小・中学校]

- ・ 勉強、漢字、読み書き、計算、九九、外国語の勉強
- ・ 体験的な活動（科学クラブの実験など） ・ 作業 ・ 自立活動
- ・ 校外学習、お楽しみ会の計画
- ・ ミライシード（コンピューターのアプリケーション）を使った学習
- ・ プログラミング、タイピングの練習、ユーチューブの活用
- ・ タブレット上での意見交換

8 将来、したい仕事や働きたい会社

[特別支援学校]

- ・ 安定した収入がある仕事、給料がたくさんもらえる仕事
- ・ 人の役に立つ仕事、視覚障害者の役に立つ仕事
- ・ 自分にあった仕事をしたい ・ 繰り返し単調な仕事
- ・ コミュニケーションのとりやすい会社 ・ 休みが多い会社
- ・ 社員数が多すぎず、少なすぎないところで働きたい
- ・ 就業体験先で働きたい
- ・ 障害者雇用をサポートするしくみがある会社で、先輩と一緒に働きたい

絵を描く、人と話しができる仕事、身体を動かす仕事、子供と関わる仕事、事務仕事、力仕事、パソコンを使う仕事、畑仕事など

エンジニア、看護師、美容師、大工、獣医、警察官、清掃員、運転手、店員、調理人、整備士、パン屋、調理人、デザイナー、レジ打ち、福祉関係など

[小・中学校]

- ・ 人の役に立つ仕事をしたい、社会に役立つ仕事
- ・ ものづくりに関する仕事（イラスト関連、食べ物加工）
- ・ 福祉に関わること、デイサービスの職員

コンビニエンスストア、サーティーワン（アイスクリーム屋）、マクドナルドの店員、寿司職人、整備士、大工、漁師、スポーツ関係、先生、ユーチューバーなど

9 将来働くために、頑張っていることや、これから頑張りたいこと

[特別支援学校]

- ・勉強（教科、読み書き、お金について）、パソコンのスキル
- ・作業学習（素早い準備、正確さ、スピードなど）、面接練習
- ・自分の身の回りのことができるようにすること
- ・健康管理、体力をつけること、清潔を意識した生活
- ・社会人として必要なスキルを身に付ける、マナーを守る（挨拶、言葉遣い、時間を守る、笑顔を心掛けるなど）
- ・コミュニケーション能力、友達と仲良くすること、自分の考えを伝えること
- ・気持ちのコントロール、忍耐力、自信をもつこと

[小・中学校]

- ・勉強 ・技術力 ・手伝い ・体力づくり
- ・話す・聞く力、友達とのコミュニケーション、質問されたことに答えること
- ・友達と話す機会を多くする、友達関係を深める
- ・集団に合わせて行動すること
- ・身の回りのことを自分でできるようにする（自立する力）
- ・プログラミング、パソコン練習、動画の作り方

10 学校にあればよいものや、直してほしいところ

[特別支援学校]

- ・校舎をきれいにしてほしい
- ・落ち着くための部屋
 - ・手話ができる先生を配置してほしい ・外国人の英語の先生を配置してほしい
 - ・トイレの増設 ・お湯がでる手洗い場の設置 ・体育館のエアコンの設置
 - ・エレベーター設置 ・渡り廊下の設置 ・バス停を近くに設置 ・自販機の設置
 - ・みんなが集える広場 ・ベンチの設置 ・遊具の増設 ・ネット環境の整備
 - ・デジタル教科書、電子黒板の配備 ・ロボットとの学習
 - ・ロッジャーの配備（より聞こえを拡張することができる補聴援助システム）
 - ・図書室の本、点字の本の充実 ・ポッチャの用具一式の配備

[小・中学校]

- ・静かに集中して学習できる個室、一人の教室 ・教室の位置の変更
- ・落ち着きハウス（クールダウンできる部屋）、休憩できる場所
 - ・他の生徒がこないトイレ ・複式の学習ではなく、クラス全員が同じ学習をする
 - ・自動販売機 ・IT機器の充実 ・癒やしのロボット
 - ・総合の教科書（何をするか見通しをもてるように） ・空気清浄機

11 学校に、期待すること

[特別支援学校（高等部）]

- ・挨拶の花でいっぱい为学校、明るく元気な学校
- ・きれいな学校
- ・人数が多い学校
- ・障害に関係なく仲良くできる学校
- ・たくさんの人、他の学校と交流できる学校
- ・たのしく勉強できる学校
- ・優しい口調、態度の先生のみがいる学校
- ・車椅子の友達でも安全に過ごせる学校
- ・生徒が中心となって学校行事を行える学校
- ・学校の存続を願っている、学校の知名度があがってほしい
- ・看護師がいる寄宿舎ができてほしい
- ・体の大きな子も入学するから力持ちの先生が増えてほしい
- ・防犯対策を充実してほしい